

課題の6	春植えタマネギの無マルチ栽培における除草体系調査（継続）
------	------------------------------

転作田等でタマネギを大規模に栽培するには機械定植が必須となり、そのためには無マルチで栽培する必要がある。無マルチ栽培で課題となるのは、雑草対策である。

そこで、除草剤使用による除草体系の確立に向けて、除草剤の組み合わせによる比較試験を行い、今後の栽培普及の資料とする。

1 調査内容

- (1) 栽培環境 露地ほ場
- (2) 供試品種 マルソー（カネコ種苗）：早生
- (3) 調査方法 下表のとおり 4 種類の除草剤の組み合わせにより2つの調査区を設け、雑草の発生状況を調査

区名	回数	散布日	除草剤名
調査区 A	1 回目	4 月 19 日	ゴーゴーサン乳剤
	2 回目	5 月 22 日	ボクサー、セレクト乳剤
	3 回目	6 月 21 日	セレクト乳剤
調査区 B	1 回目	4 月 19 日	モーティブ乳剤
	2 回目	5 月 22 日	ボクサー、セレクト乳剤
	3 回目	6 月 21 日	セレクト乳剤

(4) 耕種概要

- ①播 種 日：2 月 13 日 200 穴セルトレー
- ②定 植 日：4 月 18 日
- ③栽植様式：畝幅 175cm（床幅 75cm） 株間 15cm 条間 15cm
4 条植え（中 1 条空け） 栽植株数 15,238 株/10a
- ④施 肥 量

区分	肥料名（N-P-K%）	施肥量（成分量 kg/10a）		
		窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	燐硝安加里 1 号 S552（15-15-12）	10.4	10.4	8.3
	有機アグレット 666（6-6-6）	3.1	3.1	3.1
	計	13.5	13.5	11.4

※酸度矯正のため、粒状苦土石灰 M-10 を 95.5kg/10a 散布した。

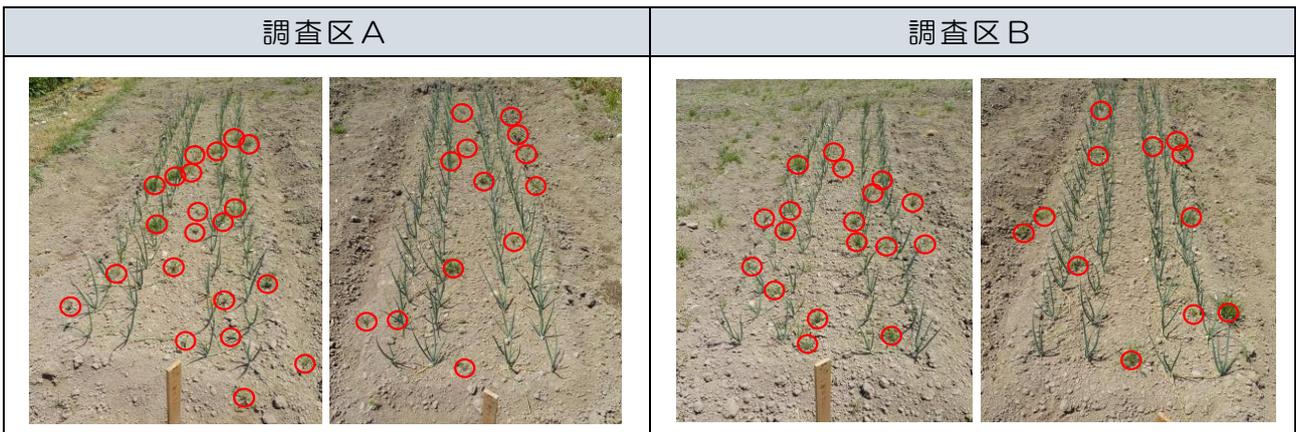
- ⑤収 穫 日：7 月 22 日

2 雑草の発生状況

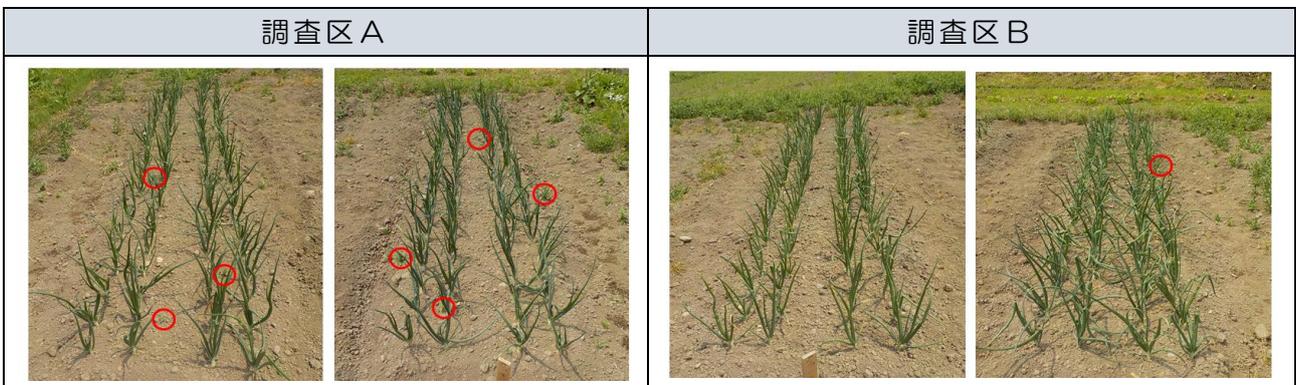
①定植後 19日目 (5月7日)



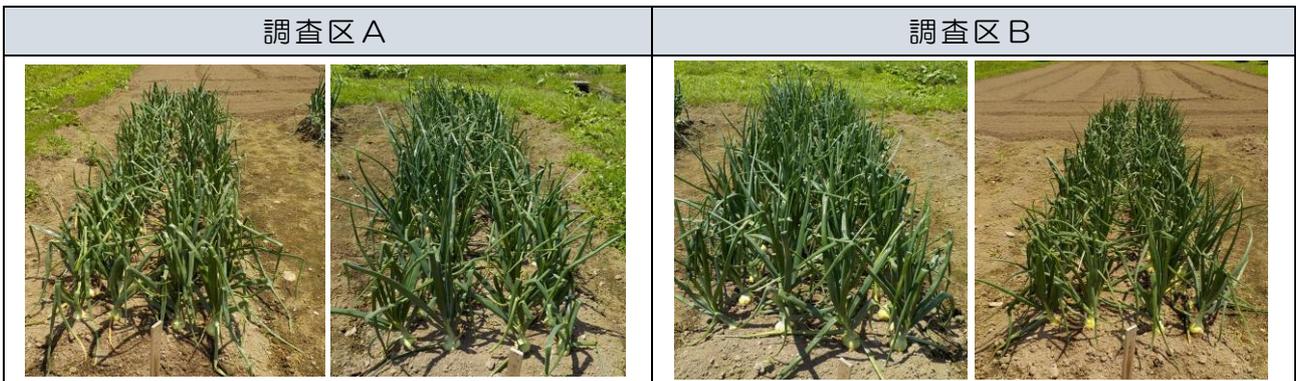
②定植後 32日目 (5月20日)



③定植後 48日目 (6月5日)



④定植後 81日目 (7月8日)



3 調査結果

写真上で確認できた雑草の発生箇所数（前ページ参照）は、表 1 のとおりである。

1 回目の除草剤散布後 19 日目（5 月 7 日）において、両区においてイネ科雑草の発生が見られ、32 日後の 5 月 20 日には畝全体にイネ科雑草が広がり、この時点で雑草の生育ステージが除草剤の使用時期を過ぎていたため、5 月 22 日に手作業で除草を行った後、2 回目の除草剤を散布した。その 2 週間後（6 月 5 日）、雑草の発生が確認できたが、1 回目の散布よりも発生箇所数は少なかった。

7 月 8 日時点の調査では雑草の発生は確認できなかった。

表 1 雑草の発生確認箇所数

月 日	調査区 A	調査区 B
5 月 7 日	12 ヶ所	14 ヶ所
5 月 20 日	34 ヶ所	30 ヶ所
6 月 5 日	7 ヶ所	1 ヶ所
7 月 8 日	確認できず	確認できず

4 まとめ

今年度は、3 月から気温が高めであったため雑草の生育が早く、薬剤の効果が定植後 1 か月もたなかった。

昨年度は、定植後 45 日程度は雑草を抑えることが出来たことから、改めて次年度も調査を行う。